



台湾中山医学大学留学生受け入れプログラム

1.

はじめに

目白大学看護学部看護学科(以下、看護学部という)では、これまで台湾の中山医学大学と提携を結び、毎年各大学から交換留学生を送り出し、国際交流を行ってきた。しかし、2020年頃より発生したCOVID-19によるパンデミックにより交流が停止され、その後は教員間の数回のメールでのやり取りのみになっていた。しかし、2023年にはCOVID-19の状況が安定することが予想されたため、2022年に看護学部の紹介ビデオを送り、2023年に3年ぶりに留学生の受け入れを再開することになった。交換留学が停止していた数年間に双方の国際交流担当教員が入れ替わり、当時のことを知る教員も少なくなった。再開に向けて過去資料を探したところ受入れスケジュールや業務担当表などはあるものの、肝心の企画書が見当たらず、どのような意図でスケジュールが組まれたか、またその評価については不明であった。そこで、今回COVID-19によるパンデミック沈静後に再開された台湾中山医学大学留学生受け入れプログラムの作成と実施の状況を記録し、振り返りをすることで今後の国際交流プログラムの充実と相互交流の深化を図りたいと考えた。(栗原淳子)

2.

留学生受け入れプログラムの作成と実施

(1) プログラム作成

本年度委員会が引き継いだ時点で決定していたのは5

週間の滞在日数だけであった。期間としてはこれまでの中で最長であった。この時期の看護学科教員は臨地実習に出ていることが多いことから、留学生の留学の目的、看護学部の教員でできること、学生ボランティアの活用の3点を考慮してプログラムを作成した。

中山医学大学から事前に送付されたプロフィールを参考に、留学の目的を明確にした。滞在が長期に及ぶため、国際交流委員だけで対応することは不可能であることから看護学部の全教員に協力を依頼した。

プログラムの企画は、5つに大別される。1つ目は、今年度の留学生は、生活の場を蕨駅近くの学生寮を利用することから、空港への送迎、生活圏のスーパーマーケットや病院、大学までの交通機関の使用など5週間支障なく生活が送れるようにすることである。2つ目は、目白大学を知り、学習や大学生活を有意義に過ごしてもらうための導入として大学のキャンパス案内、看護学部についての説明、新宿キャンパス案内、学長、副学長などへの表敬訪問、歓送迎会などを企画した。3つ目は、日本の看護教育の現状を学ぶために、授業への参加、学内実習への参加、学生の実習での学びの発表会、実習施設訪問などを企画した。4つ目は、日本の医療、看護について学ぶための企画として、病院の施設見学を取り入れた。

5つ目は、目白大学の学生が国際交流を体験するための企画として、ボランティア学生を募り36名の志願があった。また、留学生が授業や実習に参加することで、一人でも多くの学生が留学生と関われる機会を設けた。

5つ目の企画である目白大学の学生の国際交流への参加は、交換留学を考えるうえで重要なポイントである。留学生にだけ焦点を当てるのではなく、目白大学の学生が、多様な価値観に触れ、国際的な視野を養う機会にし

表1 2023年度 留學生受け入れスケジュール案

日	曜	学内予定	留學生スケジュール	待機室準備	相談窓口
6/28	水		到着 空港出迎え⇒宿泊先案内【間嶋課長】		
6/29	木		11時～キャンパスまでの交通案内【学生ボランティア】 13時～学長、学部長表敬訪問 4F大会議室 ～大学案内【末永・南】 14時～16時 宿泊先周辺の生活案内・生活準備【学生ボランティア】	待機室の準備、 茶菓の補充 【南・末永】	【南】 【末永】
6/30	金		Free		【内田】 【唐沢】
7/1	土				
7/2	日				
7/3	月		Free		【鈴木】 【唐沢】
7/4	火		新宿キャンパス見学【武田】		【内田】 【南】
7/5	水		15時～16時 学部学科説明、5週間スケジュール説明【武田】 17時～18時 Welcome party(学部長・学科長、領域長)【担当：南】 学生の自己 紹介、パワーポイントを使った日本の文化を紹介(ボランティア学生)	待機室の準備、 茶菓の補充 【渡邊】	【南】 【渡邊】
7/6	木		15:30岩槻駅集合⇒いわつき人形館／東玉【学生ボランティア】		【①南・②辰島】 【郡司】
7/7	金		1限～3限 周産期実習学内演習見学【母性】 4限 ボランティア学生との交流(栗原対応 脳トレなど)	待機室の準備、 茶菓の補充【内田】	【栗原】 1限～3限【小泉】
7/8	土				
7/9	日	オープンキャンパス (新宿)			
7/10	月		13:30～15:00絵本の読み聞かせ、技術演習の見学【小児】	待機室の準備、 茶菓の補充【内田】	【内田】 【三宅】
7/11	火		3限スポーツ・健康	待機室の準備、 茶菓の補充【内田】	【内田】 【南】
7/12	水		1限、2限 基礎看護方法論Ⅱ 演習参加【基礎】	待機室の準備、 茶菓の補充【南】	【①南・②末永】 【大園】
7/13	木		Free		【①南・②辰島】 【郡司】
7/14	金		4限 日本の精神医療と実習の紹介PPT【精神】	待機室の準備、 茶菓の補充【渡邊】	【栗原】 【鈴木】
7/15	土				
7/16	日				
7/17	月	海の日	Free		【鈴木】 【渡邊】
7/18	火		Free		【①内田・②南】 【大宮】
7/19	水		1限、2限 基礎看護方法論Ⅱ 演習参加【基礎】	待機室の準備、 茶菓の補充【南】	【①南・②末永】 【大宮】
7/20	木		Free		【①南・②辰島】 【郡司】
7/21	金		3限 老年看護学実習Ⅰ-2発表会【老年】	待機室の準備、 茶菓の補充【内田】	【鈴木】 【栗原】
7/22	土				
7/23	日				
7/24	月	学期末試験	Free		【鈴木】 【唐沢】
7/25	火	学期末試験	在宅実習まきば園見学【在宅】		【内田】 【友竹】
7/26	水	学期末試験	岩槻南HP【在宅】		【内田】 【大宮】
7/27	木		春日部市立医療センター【武田】		【①南・②辰島】 【郡司】
7/28	金	学期末試験	10時～11時 学内発表会(ウイメンズヘルス) 見学【母性】 3限 老年看護学実習Ⅱ発表会【老年】	待機室の準備、 茶菓の補充【南】	【栗原】 【鈴木】
7/29	土				
7/30	日				
7/31	月		1. 2限 発表準備 16時～ Farewell party(学科長・)【担当：南先生】 台湾の留學生は、この日までに学んだことをパワーポイント資料にして発表(10分程 度)。	待機室の準備、 茶菓の補充【唐沢】	【栗原】 【末永】
8/1	火		Free		【内田】 【南】
8/2	水		宿舍引き渡し、片づけ【学生課】 11時蔵駅 待ち合わせ 東京(12:00)→成田(13:10) 【教員：末永・栗原(蔵→東京バス乗り場) ボランティア学生(蔵駅)】		【栗原】 【末永】

表2 Schedule:Mejiro University Department of Nursing

day		Schedule	Consultation 9:30 a.m. to 5:30 p.m. Visit to the laboratory Contact from outside the university Phone numbers change daily. See table	
			First contact	Second contact
6/28	Wed	Arrival Airport pick-up → Accommodation guidance [Student Affairs Section: Tuboi] Dormitory Information [Student Affairs Section Chief: Mashima].		
6/29	Thu	9:00 - Transportation guide from dormitory to campus [Student Volunteers]. 11:00 - University guidance [Suenaga, Minami] B423 1:00 p.m. - Courtesy visit to the president and dean Main Bldg. 4F Conference Room 2:00 p.m. - 4:00 p.m. - Living guidance and preparation for living around the accommodation [student volunteers]	B450 MINAMI	B322 SUENAGA
6/30	Fri	Free	UCHIDA	KARASAWA
7/1	Sat			
7/2	Sun			
7/3	Mon	Free	SUZUKI	KARASAWA
7/4	Tue	Shinjuku Campus Guide [Takeda]	UCHIDA	MINAMI
7/5	Wed	3:10 p.m. - 4:10 p.m. Explanation of undergraduate department and 5-week schedule [Takeda] B206c 5:00 p.m. - 6:00 p.m. Welcome party (Deans, department heads, area heads) Student self-introductions, introduction of Japanese culture using PowerPoint Cafeteria	B450 MINAMI	B422 WATANABE
7/6	Thu	3 : 30 p.m. Meet at Iwatsuki Sta. ticket barrier (gate) → Visit to Iwatsuki Doll Museum [student volunteers].	①MINAMI ②TATUSHIMA	GUNJI
7/7	Fri	1st period - 2nd period: Observation of perinatal practice on-campus [maternity] Mother and Child Practice Room 16:50p.m.-17:50p.m. Interaction with volunteer students [Kurihara]	B450 KURIHARA	B426 KOIZUMI
7/8	Sat			
7/9	Sun			
7/10	Mon	1:30-3:00 p.m.: Reading picture books and observing technical exercises [Pediatrics].	A423 UCHIDA	A221 MIYAKE
7/11	Tue	3rd and 4th period Sports and Health Gymnasium and Grounds	A423 UCHIDA	B450 MINAMI
7/12	Wed	1st period - 2nd period: Basic Nursing Methodology II Exercise [Fundamental]. B301,B302	⑧ B450 MINAMI ⑧ B322 SUENAGA	B429 OOSONO
7/13	Thu	Free	⑧ MINAMI ②TATUSHIMA	GUNJI
7/14	Fri	4th period PPT introducing Japanese psychiatry and practice [Psychiatry]. 2102	B450 KURIHARA	A423 SUZUKI
7/15	Sat			
7/16	Sun			
7/17	Mon	Free (national holiday)	SUZUKI	WATANABE
7/18	Tue	Free	①UCHIDA ②MINAMI	OOMIYA
7/19	Wed	1st period - 2nd period: Basic Nursing Methodology II Exercise [Fundamental]. B301,B302	⑧ B450 MINAMI ⑧ B322 SUENAGA	B431 OOMIYA
7/20	Thu	Free	⑧ MINAMI ②TATUSHIMA	GUNJI
7/21	Fri	3rd period Gerontological Nursing Practicum I-2 Presentation [Gerontology]. B401	A423 SUZUKI	B450 KURIHARA
7/22	Sat			
7/23	Sun			
7/24	Mon	Free	SUZUKI	KARASAWA
7/25	Tue	Home practice visit to Makibaen [Saitou]	UCHIDA	TOMOTAKE
7/26	Wed	Tour of Iwatsuki Minami Hospital [Oosono]	UCHIDA	OOMIYA
7/27	Thu	Tour of Kasukabe City Medical Center [Takeda]	①MINAMI ②TATUSHIMA	GUNJI
7/28	Fri	10:00 - 11:00 a.m. Observation of in-house presentation (Women's Health) [Maternal] 2304 3rd period Gerontological Nursing Practice II presentation [Gerontology]. 2301	B450 KURIHARA	A423 SUZUKI
7/29	Sat			
7/30	Sun			
7/31	Mon	Until 4:00 p.m.: Preparation for presentation B423, Media Plaza, 4:00 p.m. - Farewell party [Minami] Cafeteria International students from Taiwan will make a PowerPoint presentation (about 10 minutes) on what they have learned up to this day.	B450 KURIHARA	B322 SUENAGA
8/1	Tue	Free	UCHIDA	MINAMI
8/2	Wed	Handover of accommodations and cleanup [Student Affairs Division] Meet at Warabi Station at 11:00 a.m. Tokyo (12:00) → Narita (13:10) See off: Suenaga & Kurihara (Warabi → Tokyo bus stop) Volunteer students (Warabi Station) Departure (Returned to Taiwan)	KURIHARA	SUENAGA

End of semester examination period

In case of emergency, such as illness or accident, please contact the dorm mother during nights, holidays, and when you are in the dormitory. Even in such cases, please contact the university by e-mail.
If you are outside of the university and need to consult or report an emergency, please email us and let us know by phone.
The phone call is to remind you that there is an emergency contact.

General Manager: Shizuno Itoi, Dean of Academic Affairs
International Exchange Committee Members: Mayumi Suenaga, Junko Kurihara, Ryuma Minami, Yukie Suzuki

なければならないと考えた。そこで、学生の空き時間の利用が可能な場合は、すべて学生ボランティアが実施することができるように、また、できるだけ多くの学生が参加できるように計画をした。

企画を実現する上で重要なことは、教職員や外部施設の協力を得ることである。寮の手配、空港までの出迎えなどは学生課に協力いただいた。目白大学を知るための企画は、学長、副学長をはじめ新宿キャンパスの教員や国際交流担当部署の方々の協力を得て実施することができた。日本の医療、看護については、実習施設の協力を得て実現した。看護教育の現状を知るための企画は、各領域実習の学内実習日に留學生が参加できる企画を依頼した(表1参照:スケジュール)。

以上のように、何を企画するかということを中心にプログラムを作成したが、もう1点大切にすることがある。それは、留學生が、安全に、且つ、安心して5週間を過ごすことができるようにすることであった。留學生が安心して学べるための準備は、すべての企画を成功させるための基盤となる。そこで、留學生に不慮の事故や健康問題など困ったことがあった場合の連絡体制を検討し、連絡方法についても英語版のスケジュール表に明示した。相談窓口として申し出てくれた教員の協力が得られたことで、プログラムを完成することができた。

企画の実施は、担当の教員の協力によりスケジュール通りに進行された。留學生が、送迎会で発表した学びの内容は、日本と台湾の看護教育の違いを中心に作成され、台湾の看護の課題を見出していた。今回の留学は、5週間と長期間であったが、大きな健康問題もなく終了し、最後に行ったアンケート調査では、全員が「とても満足」と回答しており、彼らの目標を達成する企画ができたと考えている。(末永真由美)

(2) 留學生の岩槻キャンパス内待機室の設置

待機室は、①感染予防の為に3密を避け清潔な環境を整える。②6人がキャンパス内で居場所として利用しやすく、かつ寛げる環境を整える。③看護学部の教員や留學生が参加する授業担当の教員、さらには、ボランティア学生との情報交換と留學生が相談しやすい場とするこの3点を目的とした。また、利便性を考慮して教員の

研究室や実習室に近い場所に設置した。掃除やごみの収集、テーブルと椅子の設置は庶務課に依頼し、待機室の使用法とごみの分別や火気厳禁等の注意は英語に翻訳して部屋に掲示した。在室が一目でわかるようなプレートドアに掛け、在室時には寛げるようにポットと湯茶、お菓子の準備をした。

留學生の使用状況を見ると、気温30℃を超える猛暑日が続いていたので、熱い湯茶は殆ど使用しておらず、数人の学生がポットを60℃に設定して携帯保冷保温ボトルに入れて使用していた。その他の留學生は冷たい飲料を持参していた。準備したお菓子は学生の息抜きになり、また会話が弾むきっかけになっていた。

また、留學生が参加する授業の資料や連絡事項等については、事前にテーブルの上に準備しておき、留學生が情報収集しやすくした。留學生にとっては寛ぐことができ、かつ活動もしやすい環境となっていたようであり、アンケートでは待機室の環境に満足との回答が得られていた。(鈴木幸枝)

(3) ボランティア学生募集の経過

2023年4月に看護学部の会議で留學生6名を受け入れるにあたり、1、2年生を中心にボランティア学生を募るためにポスター掲示することを説明した。ポスターには、ボランティア期間と内容を記載し、翌年3月には本学学生が中山醫學大學に留学できる機会があることも明記し5月末日まで掲示した。1、2年生の学年担任には各学年のグーグルクラスルームを通じて募集をかけた。その結果、30名以上の学生の応募があり、5月に説明会を行った。

ボランティア学生の企画には、なるべく体を動かして一緒に取り組めるようなコミュニケーションの取りやすい企画を選んだ。目白大学の学生は、恥ずかしそうに微笑みながら留學生に近づいてスマートフォンにあるアプリの英語の翻訳を参考にしながら留學生に質問をしていた。留學生も嬉しそうに微笑んで質問に答えていた。会話は、「日本に来て台湾と違うと思ったことは何ですか」など台湾と日本の違いに関することが多かった。留學生は、「台湾では、バイクや自転車の量が多いのですが、日本では少ないことに驚きました。」と返答をしてスマー

トフォンで台湾のバイクや自転車で混み合っている通りの写真を見せるなどして異文化に触れあい、互いに理解を深め合っていた。(栗原淳子)

(4) 病院・施設見学

日本の医療・介護の現場を紹介するために7月末に3施設の見学を行った。

まず、7月25日(火)は、実習施設の特別養護老人ホームまきば園に出かけた。まきば園は施設使用者に対し敬意を込めて「お客様」と呼び、施設職員は全員が色とりどりのアロハシャツを着ている。留学生も早速アロハシャツに着替え、覚えてたの日本語や通訳アプリ、身振り手振りで交流を図りながら体操や風船バレーなどを体験した。お客様のリクエストに応え、台湾語で歌声を披露する場面もあった。機械浴室で機械に乗り浴槽に入る体験やナースステーションではどういう看護ケアが多いのか、緊急時の対応や医療処置について熱心に質問をしていた。予め留学動機を伝えていたため施設長が充実したプログラムを組んでくださったことに感謝し施設を後にした。

ついで、7月26日(水)は、地域密着型の医療提供と透析や24時間体制の循環器専門病院である岩槻南病院を訪れた。病院紹介は中国出身のN氏による同時通訳のお陰で、留学生は積極的に看護部長や総務課長に質問をしていた。さらに、理学療法士のM氏から英語版の資料をもとにリハビリテーション科の説明があった。施設内見学では各部署の担当者による丁寧な説明に対して、留学生は中国・台湾の医療体制との違いなどについて発言し、両国間の比較を通じて学びを深めている様子であった。会議室に戻り最後の質疑応答をしていると丸山院長が挨拶に来られ「いつでもまた来てください」と温かいお言葉を頂いた。

最後に、7月27日(木)は、地域の完結医療体制をめざし、小児・周産期医療、救急医療、災害時医療の4事業に重点的に取り組んでいる春日部市立医療センターを訪問した。吉川副院長と看護部長の笑顔の迎えに留学生たちの緊張も一気にほぐれた。副院長による病院・看護部の組織、新人教育プログラム等の説明時には台湾の教育システムとの違いが話題になった。施設内見学では、

6S病棟→手術室→外来→医療安全管理・退院調整室→入退院支援室→ホスピタルアートの順に巡回した。病室やナースステーションの構造は看護師の意見や動線を反映して作られたこと等の説明を受けて留学生はしきりに感心していた。手術室では、キャップやガウン、靴カバーを装着し、手術ロボット「ダビンチ」を間近で見ることができた。驚くことに手術台に促されて臥床する体験もあった。「Very comfortable!」との感想に、長時間手術に備え特別なマットが使用されていると説明され一同が頷いた。病棟では台湾出身の医師に紹介され、「ホームシックはないか」と質問を受けた。留学生の一人が「1ヶ月近く離れているので少しだけホームシックになっている」とはにかみながら答えていた。手厚いもてなしに感謝し病院を後にした。別れる前に駅前のコーヒーショップで一息ついたが、朝胃痛があった留学生も笑顔でメロンソーダを飲んでいることを確認し解散した。

(武田保江)

(5) ウェルカムパーティー、フェアウェルパーティー

ウェルカムパーティーは本格的に大学での留学プログラムが開始される前に行い、本学の学生と留学生が交流することでコミュニケーションを取りやすくなることをねらった。また、パーティーを実施することで歓迎の意思を示し、留学生からも本学の学生や教員に積極的に話しかけることができるようになることをねらいとした。フェアウェルパーティーは、留学生の学びを共有・深める場とすること、留学の締めくくりとして盛大に送り出すことをねらいとした。今回は、COVID-19が第5類感染症に変更された後の開催ではあったものの、看護学部は実習があるため、厳重な感染対策を実施していた。感染対策としては、パーティー会場での飲食禁止、マスク着用を徹底した。国によって感染対策が異なるため、留学生にも十分な説明を行った。

パーティーの実施時間としては、ボランティアの学生や教員が多く参加することで歓迎の意思がより伝わると考え、学生や教員の授業がない時間帯を選択し、1時間程度とした。ウェルカムパーティーの内容としては『学部長挨拶』『国際交流委員長挨拶』『留学生の自己紹介』『日本の文化・観光地紹介』『ゲーム』『フリートーク』『学



写真1 ウェルカムパーティー

科長挨拶』とした。異なる国で暮らす初対面の人物との交流であることを重要視し、自己紹介の要素が含まれたゲームを実施した。留学生を含む6～7人でチームを作り、チームメンバーの回答を覚えながら自分の回答を追加していくというゲームであり、質問としては『兄弟の人数』『好きな食べ物』『嫌いな食べ物』『好きな色』『好きなスポーツ』『好きな動物』『趣味』『誰にも負けないもの』という項目で行い、失敗した場合のペナルティを設定した。例えば『歌を歌う』『ダンスを踊る』『恥ずかしかった経験を語る』『動物のモノマネ』『一発芸』『理想の恋人』などとした。台湾には徴兵の文化があったため、経歴や身分を明かすような項目にしないなど、文化が異なる点にも留意して項目を決定した。英語力に関わらず参加できるよう、ゲームに時間制限は設けなかった。その他に、留学生の自己紹介、本学学生による日本の文化や観光地の紹介、フリートークの時間を確保した。

フェアウェルパーティーの内容としては、『学部長挨拶』『国際交流委員長挨拶』『留学生の学び発表』『フリートーク』『学科長挨拶』とし、留学生が学んだ内容や、それを深めるフリートークの時間を多く設けた。

感染対策のため飲食は禁止としていたが、寮に帰って

から楽しめるように手土産として、日本の駄菓子や抹茶のスクーンなど、日本の文化に触れられるようなものを用意した。2つのパーティーを実施したが、どちらにおいてもフリートークの話題がゲームや留学生の学びに関連しており、学生同士のコミュニケーションを促進させていたと考えられた。パーティー終了後にはすっかり打ち解けた雰囲気に包まれ、積極的に声を掛け合って一緒に写真をとる姿に至る所で見ることができた。(南龍馬)

(6) 日本と台湾の医療と看護教育の相違

留学プログラム全体を通して、留学生は日本と台湾の看護の相違について多くを学んだ様子であった。日本は世界でも例を見ない超高齢化社会を迎えているが、台湾においても高齢化が進んでおり、台湾では日本の動向に関心を持っているとのことであった。また、日本では病院中心の医療から地域生活中心の医療に移行し、看護教育においても在宅看護やコミュニティ看護についての学習科目が増えている。これに対し、台湾では地域の施設はあるが、訪問看護はなく、訪問介護が存在するとのことであり、中山医学大学では地域や在宅看護については学習していないとのことであった。留学生にとっては、



写真2 基礎看護学の演習で足浴を実践



写真3 留学生受け入れプログラムの成果を発表

日常生活援助を通じた患者との関わりやQOLの向上を目指した日本の看護から新しい視点を得たようであった。
(栗原淳子)

3.

留学生受け入れプログラムの作成と実施を振り返って

今回の台湾中山医学大学留学生受け入れプログラムの目的は、看護学部の教育を体験し、地域の病院や施設訪問を通して日本の医療や看護・介護の実際を知り、台湾と比較して考えることにより看護についての学びを深めることであった。また、日本の文化に触れ、文化を支えている思想や価値観を理解し、多様性を受け入れることでもあった。留学生はすべてのプログラムに参加し、積極的に質問し意欲的に学んでいた。フェアウェルパーティーでは、その成果をパワーポイント資料にまとめて発表をした。その際に留学生受け入れプログラムで学習したすべての看護教育について台湾の背景や医療、看護に触れながら説明し、日本との比較から考察してい

た。また、日本の医療システムや看護教育を学んだことから将来の学修の方向性が見えてきたようであった。留学生から「満足した」との声が聞かれたことから留学生受け入れプログラムの目的は概ね達成できたと考えられた。

国際交流に関する看護教育について厚生労働省は、「国際社会において広い視野に基づき看護師として諸外国との協力を考える」、「国際化および情報化へ対応する能力を養う内容を含む」と述べ、看護教育における国際化の含まれた指導要領を作成している(厚生労働省医政局看護課, 2007)。また、2017年に打ち出された看護学教育モデル・コア・カリキュラムの方針では、「学士課程においては、多様な文化背景をもつ人々の生活の支援に必要な能力を理解でき、国際社会における健康課題と戦略を理解し、今後の看護職に求められる役割や責任について考察できる看護師を育成する」とあり、国際的なグローバルな視点に立って物事を捉え、考えることのできる看護師の育成を提唱している(大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会, 2017)。これらの点からも今後益々国際交流による多様な文化背景をもつ人々への理解や看護に必要な視点が求められる。

課題としては、受入れ期間が3年生の専門領域別実習と重なっていたため、3年生と実習を担当する教員とのかわりは事実上かなり限られていた。かつ、30日以上に亘る長期間であったため、対応できる学生や教員の確保が困難であった。

今後は留学の時期や期間、環境が留学生にとって適切か、留学生の見学や授業と本学の学生との交流のバランスを考える必要がある。今回のプログラムは看護学部の教員の他に一部保健医療学部の教員の協力を得てスポーツの授業に参加させてもらった。学部生と一緒に汗を流した体験が留学生に大変好評であった。今後は目的に応じて他学部教員の協力を得ることも視野に入れて考えたい。

末尾になるが、COVID-19禍において中止していた交換留学が再開できたのは多くの関係者のご協力のお陰であり、皆様に感謝の意をお伝えし結びとする。

(栗原淳子)

引用文献

厚生労働省医政局看護課. (2007). 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書. (2007年4月20日告示)

<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/s0420-13.html> (2023年8月12日参照)

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会. (2017). 看護学教育モデル・コア・カリキュラムー「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標. (2017年10月告示)

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2017/10/31/1217788_3.pdf (2023年8月13日参照)

